

大切な思いを未来につなぐ「終活」

門松は 冥土の旅の 一里塚 めでたくもあり めでたくもなし

この狂歌を御存知でしょうか。作者は室町時代の禅僧の一休宗純禅師。テレビアニメでお馴染みの一休さんだと言ったほうがわかりやすいでしょう。アニメでは様々な難問をとんちで解決する賢い小坊主さんです。しかし、実像は高名ながら、竹竿の先端に髑髏（ドクロ）をつけて正月の京都の町を歩いていたという逸話などが伝えられる戒律や形式に囚われない僧侶だったようです。

この歌は、新年を迎え慶んでいる世の中を皮肉っていますが、「年を重ねることは、言い換えれば死に近づくということであり、その理解の上で正月を祝うものだ」とも解釈できます。まさに、一休禅師の死生観が表現された歌だといえます。

本会報でなぜこの話題を取り上げているのかというと、現在、大分県議会では「終活」支援推進に向けて、議員による政策立案^{注2}で「人生会議推進条例」（仮称）の制定をめざして検討が進められているからです。県下でも別府市を含むいくつかの自治体で、「終活」支援の取り組みがすでに始められています。

「終活」は、自分らしい最期を迎えるために準備することと理解されていますが、死は全ての人に必ず訪れるということを実感した上で、これまでの人生を振りかえるとともに、これからの人生をどのように歩んでいくのかを考える機会になるのではないかと思います。

現在、「終活」支援を進めている各自治体では、名前はそれぞれ違っていますが、「エ

ンディングノート」と呼ばれる各自が記入できる冊子を無料で配布しています。ノートをめくると、基本情報や健康状態を記入するページ。病名の告知や延命治療の希望の有無など、もしもの場合の自分の意思を記入するページ。預貯金や借入金などを記入するページ。家族や知人などへメッセージを記入するページなどもあります。

このノートに記入後、「自分に向き合う機会になった」、「旅行や家族とのふれあい、旧友への面会などこれからやりたいことができた」、「私物や不動産の整理など済ませておかなければならないことが明確になった」という市民の方々の声を取り組みを進めている自治体へたくさん寄せられているそうです。

大切な思いを未来につなぐ取り組みとして、皆さん方の参考になればと思います。



自治体が配布しているエンディングノートの一例
（自治体によって内容は若干違うようです）

注2 行政が取り組みにくい課題を議会が主導し、議員提案で条例化すること。

原田たかし後援会への加入をお願いします

原田たかし後援会への加入をお願いしています。年会費は1家庭1,000円です。加入していただいた方へは、年4回発行しています「原田たかし会報」と県民クラブ会報「県民ひろば」をお送りいたします。御連絡をお待ちしております。

原田たかし後援会 ☎0977(25)0011

〒874-0838 別府市荘園町3組の2 原田たかし事務所内

公式アカウント「LINE@原田たかし」開設しました

ラインをご利用されている方は、QRコードからぜひ御登録ください。活動報告などをお伝えしていきます。

ぜひ、お知り合いの方に御紹介ください。

